
涙のワケ

癒哀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

涙のワケ

【Nコード】

N2192E

【作者名】

癒哀

【あらすじ】

「もういい！雄ちゃんとは話さない」俺と彼女の喧嘩から始まる物語。・・・「もう疲れた」俺と彼女の行く末は・・・？

（前書き）

この作品はパソコンから編集しています。携帯からは見つらいと思
いますがご了承ください。また、最近パソコンを使い出したばかり
で誤字、など見つらい所も多々あると思いますが、そのあたりもご
愛嬌で！最後になりましたが、完全オリジナル。盗作などサイトに
迷惑になる行為。当方に不利になる行為はおやめ下さい。長文、失
礼しました。

「もういい！雄ちゃんとは話さない」

そう言っただけ彼女が、クッションを抱きしめてテレビを見る。

「ちょっ、ちゃんと話聞けよ」

って、テレビを消す・・・勇気なんてなくて。

さっきから、キッチンの椅子に座ってリビングのソファに座る彼女を見つめてる。

確かに俺が悪かったって思う。

久々の休み彼女と出かけたショッピング。

『久しぶり』

聞き覚えのある声。

たまたま出会った元カノ。彼女が居るのを忘れて話し込む。

別に喧嘩別れとか、嫌な別れ方をした訳でもない。

恋しいとか今でも好きとかそんな感情はない。

って言ってもそんな事、彼女にわかる訳もない。

って、今ならわかるから・・・。

「ごめん。あいつとは、今は友達だし何にもないから」

って、謝っただけ・・・。

「違うもん。あたしは、そんな事で怒ってるんじゃない！」

「じゃあ、何なの？」

『もういい！雄ちゃんとは話さない』

で。

この状態。

ない頭をフル回転させても理由が見つからない。
気づいてくれ……。俺の熱い視線。

……。て心で呟いてみる。

全く無反応の彼女。

ってか、もういいかも。

最近は喧嘩しても俺から折れて。

もういい。

考えるのも……。って思ったら変に勇気が出てきて。

ガタンッ。

勢いよく立ち上がる。

それでもピクリとも動かない彼女。

「なあ。いいかげんに・・・」

言葉と同時にテレビを消して彼女の方を見る。

「いいかげん。りゅ・・・う」
言葉を飲み込んだ。

「ヒックッ」

彼女が泣いてたから。

いつから？

いつから俺にバレないで泣いてたの？

「もうッ。いい」

声を震わせながら彼女が呟いた。

俺、最低。

こいつ泣いてる原因は、確実に俺な訳で・・・。

「はあ。・・・ごめんな」

そう言っただけで彼女の頭を撫でる。

「ごめん」

「・・・雄ちゃんは、あたしの雄ちゃんだもん」

「・・・？」

「あの娘が、嬉しそうに呼んだから。」

また、大きな瞳から大粒の涙を流しながら呟いた。

いまいち、意味がわからなくて彼女を見つめる。

「雄ちゃんって呼んでいいのは、あたしだけだもん。」

その言葉で思い出した。

「俺と付き合って下さい」

「・・・はいッ」

「マジで？超うれしいんだけど」

「雄一君。大袈裟だよ」

「・・・」

「ん？」

「付き合う訳だし雄一君はやめない？」

「・・・じゃあ、雄ちゃん」

「雄ちゃん？」

『駄目?』

『いやッ。今まで呼ばれた事ない・・・かも』

『じゃあ、決定。あたししか呼んでない。あたししか呼んじゃいけない。雄ちゃんの呼び名』

『おうッ』

『絶対だよッ。あたし以外が呼んだら泣いて、泣きまくって雄ちゃん嫌いになるからね』

「約束したのになぁ」

その言葉に反応する彼女。

「馬鹿だッ。って笑えばいいもん」 P B R

「笑わねえし」

「雄ちゃんには、忘れちゃう事でも。あたしには大事な事なお」

そう言って、またテレビのリモコンに手を伸ばそうとする彼女の手を握り抱き寄せる。

「いめん」

「・・・」

「・・・もう。嫌いになった？」

「・・・な。なれたら楽なのになあ」

「よかった。俺も同じこと思ってた」

そう呟き彼女の唇にキスをする。

《おわり》

（後書き）

パソコン初。執筆。次に書くときには、もっとうまく書けるように
頑張りますので、また読んで戴ければ幸いです。2008・05・
05

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2192e/>

涙のワケ

2010年11月7日08時11分発行